

## [資料] 1918年大町地震の被害に関する文献調査

### — 流行性感冒下での被害地震 —

秋田大学 地方創生センター\* 水田 敏彦

鏡味 洋史†

Literature survey on damage of the 1918 Omachi earthquake

— Damaging earthquake under the pandemic influenza —

Toshihiko MIZUTA

Center for Regional Revitalization in Research and Education, Akita University,  
Tegata Gakuen-machi 1-1, Akita, 010-8502 Japan

Hiroshi KAGAMI

Ishikari, 061 Japan

Literature survey on damage of the November 11, 1918 Omachi earthquake was carried out. This M=6.5 earthquake was inland one and caused moderate damage in and around Omachi town, northwestern Nagano prefecture. Fortunately no human loss and few injuries were reported. However, this earthquake occurred under the epidemic of influenza, so called “Spanish flu” and many difficulties might appeared during its recovering processes. In this paper, reconnaissance reports and local newspaper articles at that time were investigated and revealed detailed damages and their recover processes under the epidemic of influenza. In Nagano prefecture, epidemic of influenza had started from the beginning of October and the total numbers of patients reached to 82,000 just before the earthquake occurrence. Under the continuing aftershocks, victims compelled to evacuate at outdoors in spite of snowy cold weather. It was reported that many caught influenza in this situation and some lost their lives. Shortage of medicine due to break of medical bottles by the earthquake shaking was also reported. Nowadays, we are facing to the menace of Covid-19 and should learn many lessons from this earthquake experiences.

Keywords: 1918 Omachi Earthquake, Earthquake damage, Epidemic influenza in 1918-1920, Literature survey.

#### § 1. はじめに

1918年(大正7年)11月11日大町地震は長野県大町市付近で発生したM6.5の内陸地震である。被害集中域は震央に近い北安曇郡の町村であり、多くの建物が全半潰している。また、長野県では1918年10月上旬から始まっていた流行性感冒流行下での地震であった。本論では1918年大町地震について、既往の報告書、論文、地元の新聞記事を通じて被災と対応に着目して文献調査を行う。

2019年末から2020年にかけて新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が世界的に流行し、現在も進行中である。100年前の1918~1920年に流行した流行性

感冒(俗称:スペイン風邪)が過去の例として参照されている。感染症流行下でも地震災害の発生は懸念され過去の事例に学ぶことは重要であると考えている。

#### § 2. 1918年大町地震の概要と被災地域の概要

##### 2.1 1918年大町地震の概要

『日本被害地震総覧』[宇佐美・他(2013)]によると本地震の諸元は、「発震時1918年11月11日2時58分、16時3分、長野県大町附近、 $\lambda=137.88^{\circ}$  E,  $\phi=36.45^{\circ}$  N, M=6.1, 6.5」とあり、前震を伴った地震で

\* 〒010-8502 秋田市手形学園町1-1  
電子メール: tmizu@gipc.akita-u.ac.jp

† 〒061 北海道石狩市在住  
電子メール: ve3iv6@bma.biglobe.ne.jp

ある。また、被害一覧表が掲げられており、被害は北安曇郡の大町と周辺の町村に集中し、「家屋全潰 6, 半潰 305」などが生じている。人的被害は後述[大森(1921)]のように負傷者 5 名のみで死者はいなかった。図1は大町地震の震度分布図である。図中には『日本被害地震総覧』[宇佐美・他(2013)]に掲載の震度分布図による強震(実線)と有感(破線)の区域を示し、背景は数値地図 250m メッシュ(標高)を用いた。

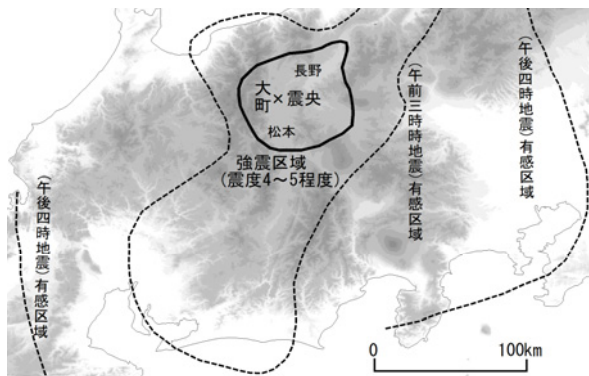


図1 1918年大町地震の震度分布

Fig.1 Seismic intensity map of the 1918 Omachi earthquake.

なお、流行性感冒の流行した 1918 年 10 月から 1920 年末までに発生した被害地震として他に 1919 年 11 月 1 日広島県三次附近の地震 (M=5.8), 1920 年 12 月 27 日箱根山の地震 (M=5.7) が『日本被害地震総覧』[宇佐美・他(2013)]に掲載されているが、壁の亀裂・落下、墓石の転倒などの小被害にとどまっている。

## 2.2 被災地域の概要

被災地域の長野県北安曇郡は長野県北西部に位置し、松本から糸魚川に至る糸魚川街道に沿う地域である。江戸時代に大町は宿場町として栄え、明治以降は郡役所、区裁判所、中学校などが置かれた。

松本と大町を結ぶ私鉄の信濃鉄道は 1915 年 1 月に松本から路線を伸ばし 1915 年 11 月には大町の南の仏崎まで、1916 年 7 月には高瀬川橋梁が完成し大町まで到達した。大町から北へ国鉄大糸南線として延伸するのは 1929 年以降である。従って、地震当時は信濃鉄道が大町どまりであった。大町の南を流れる高瀬川は西側の山岳地帯から東流、大町から南流し、明科で犀川に合流し北流する。1902 年創業の安積電気株式会社は高瀬川に水力発電所を設け発電事業を行い、大町に本社を置いていた。

## § 3. 長野県における流行性感冒の状況

地震が発生した 1918 年 11 月の流行性感冒の状況は、『流行性感冒』[内務省衛生局(1922)]によると「第 1 回流行」の最中であり、「流行の端を開きたるは大正 7 年(1918 年)8 月下旬にして 9 月上旬には漸くその勢いを増し、10 月上旬病勢頓に熾烈となり、数旬を出でずして殆ど全国に蔓延し、11 月最も猖獗を極めたり、12 月下旬に於て稍々下火となりし」と記載されている。長野県の状況については、『日本を襲ったスペイン・インフルエンザ』[速水(2006)]に 1918 年秋から 1919 年 1 月 31 日までの市郡別の患者数・死亡者数、1918 年 12 月 31 日日本帝国人口動態統計による現住人口の一覧表が掲載されている。これを基に市郡別の罹患率と死亡率を求め図 2 に示す。長野県では 1919 年 1 月までに 4 割近くの県民が罹患し、被災地北安曇郡の罹患率は 42%、製糸工場が集中する松本市と諏訪郡で罹患率が高く 70%~80%であった。死亡率も地域によって違いがあるが、北安曇郡では罹患者の約 1%が死亡している。

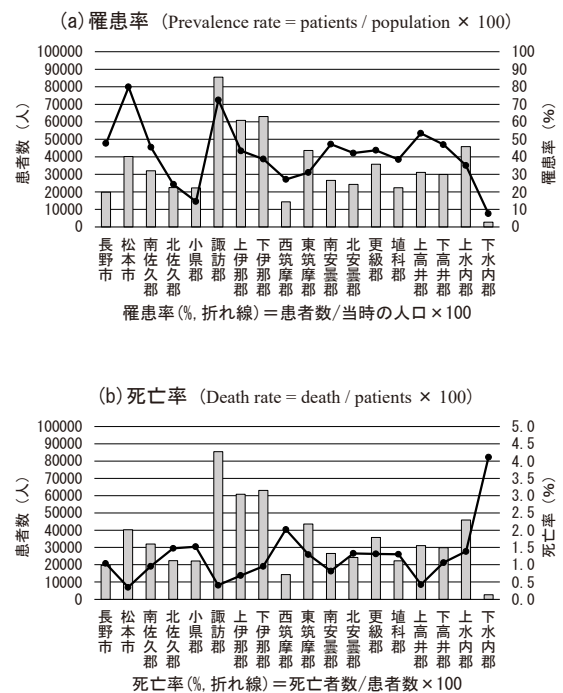


図2 長野県の市郡別患者数(棒グラフ)に対する (a)罹患率と(b)死亡率(折線グラフ)。速見(2006)の表を基に作成(1918年秋-1919年1月31日)。Fig.2 (a) Prevalence and (b) death rates(line graphs) versus number of patients(bar graph) by city and county in Nagano prefecture. After Hayami (2006).

(From the autumn of 1918 to January 31, 1919)

#### § 4. 関連資料の収集と概要

大町地震に関する調査報告、論文、地方新聞に被害が記載されているものを以下に示す。

**気象集誌:**地震発生年の1918年から1919年に中村左衛門太郎が3編の現地調査結果を『大町附近の地震に就きて』[中村(1918, 1919a, 1919b)]と題し報告しており、町村の被害状況などが掲載されている。第1報では、被害について一覧を掲げているが、大町、常盤村、社村、八坂村のみで途中の段階のものと思われる。第2報は地鳴、余震について、第3報は震度、余震の減衰について述べている。

**建築雑誌:**地震翌年の1919年に堀越三郎が『長野県大町地方震災調査報告』[堀越(1919)]と題し個別建物被害を報告している。堀越は11月16日中央線飯田町を出発し翌17日午後1時30分ごろ大町着、20日午後4時迄3日間同町に滞在している。調査結果を(1)住家(2)土蔵(3)学校、官衙(大町中学校、大町小学校、大町小学校分教室、大町区裁判所)(4)神社、仏閣(竈神社、若一王子神社、霊松寺)(5)工場に分け写真、建物図面を用い詳述している。被害の特徴を述べ、震災後家屋修繕に関する注意を示している。

**震災予防調査会報告:**堀越三郎、大森房吉、坪井誠太郎が現地調査を行っている。地震から2年後の1921年発行第94号に『大町地方震災後家屋建築及修理に関する注意』[堀越(1921)], 『大正7年信州大町地方激震調査報告』[大森(1921)]が掲載されている。堀越(1921)の報告は建築雑誌に掲載のものの再掲である。大森(1921)の「震害」の項では、震害表と震動区域図が掲げられ、『日本被害地震総覧』[宇佐美・他(2013)]に掲載の被害一覧表と震度分布図の基になっている。北安曇郡役所の調査結果をまとめている。負傷者は常盤村、会染村、八坂村で各1、美麻村で2名の合計5名としている。全潰した住家はどれも腐朽したものの土蔵を居宅に改造したもので普通の住家で全潰したものはなかった。大町地方の住家は低いものが多く2階建ての場合も半2階で、1847年の弘化善光寺地震後の長野市中で2階建てが禁じられたのが、この地方にも及んでいるのではと推測している。被害写真が3枚掲載されている。翌1922年発行第98号に『信州大町地震調査概報』[坪井(1922)], 『大正7年信州大町地方激震調査報告(第2回)』[大森(1922)]が掲載され、坪井(1922)は地質関係、大森(1922)は地震後の水準測量について報告している。

**地学雑誌:**1923年に大森房吉が2編の調査結果を『信州大町地方の地震に就きて』[大森(1923a, 1923b)]と題し報告している。震災予防調査会報告の

大森(1921)の報告と同じである。

**地方新聞:**長野県の代表的な新聞に『信濃毎日新聞』がある。1873年創刊、1881年に『信濃毎日新聞』と改題し、1942年戦時中の統合整理で1県1紙となり現在に至っている。「信濃毎日新聞データベース」(<https://db.shinmai.co.jp/tdb/>)を使用し紙面を収集資料とした。1918年10月1日から1918年12月31日までの紙面を調べた。新聞記事の内容については次章で詳述する。また、新聞記事の一覧を本文末尾の付録に示す。

#### § 5. 被害状況と震災対応

##### 5.1 被害とその分布

被害調査報告、論文、新聞記事から被害に関する項目を旧町村別に整理し表1に示す。また、表1より被害を抜き出し、被害の分布を当時の鉄道と主要な道路と共に示すと図3のようになる。大町市街については、被害の詳細を図4に示す。被害のまとめを以下に示す。

**建物被害:**破損が多く震央から10km程度の範囲を中心に広く分布する。住家の被害が大きい町村は北安曇郡社村、常盤村、八坂村、平村、美麻村、七貴村、陸郷村、広津村で全半潰している。個別建物被害については、大町、社村、美麻村を中心に学校、郡役所、警察署や寺院などの破損が多く報じられている。

**道路被害:**地盤の亀裂・崩壊が多く発生し、池田街道や県道などが不通となっている。その他、大町と社村との境の農具川橋脚石垣破壊、美麻村大町街道の橋梁が墜落し不通となっている。また、平村でも里道の橋梁墜落、道路も決潰し不通となっている。

**鉄道被害:**大町駅の被害が最も多く、貨車3輛脱線し、石垣崩壊や貨物ホーム倒壊などが発生している。また、高瀬川鉄橋の石垣が崩壊し不通となっている。

**地盤災害:**平村の山崩れ、社村県道の地這りなどが報じられている。美麻村の霊松寺では山一面に亀裂生じ、その他、震央から20km程度離れた下水内郡水内村付近の山で数ヶ所亀裂が生じている。

**大町市街の被害:**大町市街の被害は多く、学校や公共建物、土蔵が破損している。また、人家の石瓦が街路に落下し街路が通行出来ず、堤防、石垣、橋梁が全て破損したことが報じられている。その他、被害は多岐にわたり裁判所被害甚だしく電燈変圧器も各所墜落、町南部では下水が潰れて一時氾濫したことが報じられている。

表 1 大町地震の町村別被害のまとめ

Table 1. List of damage by town and village due to the 1918 Omachi earthquake

郡名	旧町 村名	震災予防調査会報告[大森(1922)]										新聞記事 【学術論文[出典]】	現市 町村名	
		人的 被害 負傷 (人)	居宅			付属建物 土蔵等		官署 学校 社寺 破損 (棟)	石垣 石積 被害 (個所)	道路 崩壊 亀裂 (間)	河川 決壊 亀裂 (間)			
			全潰 (棟)	半潰 (棟)	破損 (棟)	全潰 (棟)	破損 (棟)							
北 安 曇	大町			241	867	6	692	84	228	302	2566	町中家戸障子全部外れ,町内到る處の土蔵に亀裂,人家屋上の瓦が街路に落下,寺院の墓石倒れる,堤防石垣橋梁等は全部破損,町内到る處に亀裂 大町の中央より南部下水潰れて氾濫し一時は水害さへ見るに至りたる 東町家屋 3 棟潰倒下仲町龍立屋土蔵潰れ 裁判所被害甚だしく又電燈変圧器も各所墜落 九日町雜貨商土蔵 3 棟 3 時の際倒潰 郡役所壁大半崩れ其側なる記念館の陳列棚は落ち瓶入れの陳列品は破砕 小学校職員室と便所附近亀裂 【大町中学校(木造 2 階建瓦葺:屋根瓦脱出窓硝子破損)大町小学校(木造 2 階建瓦葺:屋根瓦脱出窓硝子破損壁亀裂剥落害なき所殆ど無し)大町区裁判所(木造平屋建:壁の被害甚だしく長押脱落数個所硝子の被害稍や少なりし付属煉瓦倉庫亀裂)龍神社(社殿著しき損傷無し記念塔台座回転櫓筋違切断)若一王子神社(社殿社務所三重塔著しき損傷無し玉垣転倒石垣崩壊)[堀越(1919)]】	大 町 市	
	社村		4	16	270	7	350	18	57	1242	570	字山の寺土蔵半潰 社村県道糸魚川街道亀裂,大町と社村との境界農具川橋の橋脚石垣破壊,松崎下の県道地じりのため決壊 三嶋神社の石灯籠 4 基倒れ 【大町小学校分教室(社村字常光寺に在り柿葺き木造 2 階建:硝子破損壁亀裂破損甚だしき) [堀越(1919)]】		
	常盤村	1	1	28	585		476	11	3	120		字清水上一本木地方潰家 1, 半潰 3 土蔵 240 棟中壁の崩落せざるは 1 棟もなき, 常盤村役場金庫転げ出し		
	八坂村	1	1	9	67	2	71	7	36	226	200	半壊家屋 2 土蔵半潰 4 棟其他道路堤防決潰数知れず		
	平村			3	309		188	6	2	25	8	3 戸潰倒 木崎湖畔夏期大学附近石垣長さ 10 余間崩れり,字野口より葛の湯に至る里道内墜落橋梁 3 ヶ所決潰道路十数ヶ所通行不能人は綱を腰につけ辛ふじて通行		
	美麻村	2		4	68		38	145			20	字新行区土蔵住宅の破壊せる,道路 200 間決壊人馬交通途絶 美麻村県道大町街道字天狗下橋梁墜落通行途絶 靈松寺山一面に亀裂生じ古刹靈松寺危険の状態 【靈松寺(本堂壁亀裂剥落長押鳴居脱落本堂と薬師堂連絡廊下床脱落建具脱出,庫裡根太引脱出床墜落壁亀裂著しく)[堀越(1919)]】		
	松川村						13	22						可成の被害あり,緑町土蔵瓦落下 1 屋根石落下 4
	池田村				7		42	1						可成の被害あり,字堀田正科区土蔵の屋根瓦墜落せるもの 6,家屋の土壁の落ち 1 戸
	会染村	1			3		14	2	4					可成の被害あり 会染役場机其他転倒して破壊
	七貴村				2			8						
陸郷村				1	370		386							
広津村				1	1	1	3	6	2	60				
下 水 内	日里村											字御山里土蔵 1 棟倒壊被害は軽微人畜に被害なし	長 野 市	
	水内村											付近の山は数ヶ所に亀裂		
	高遠町	下伊那郡										高遠町地籍鉾持棧道上の保安林亀裂	伊那市	

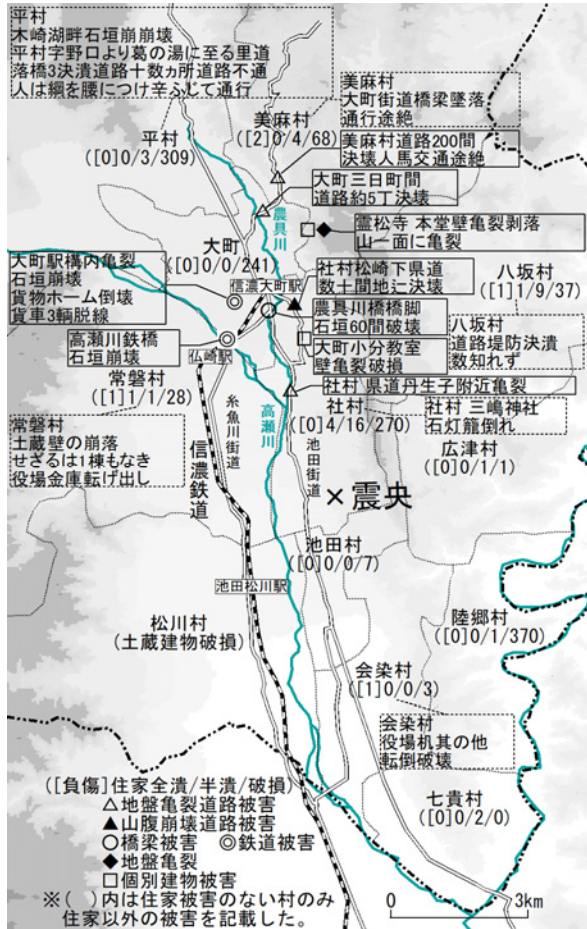


図3 1918年大町地震の被害分布  
Fig.3 Damage distribution due to the 1918 Omachi earthquake.



図4 大町市街の被害  
(背景地図は1915年発行の1/50,000地形図)  
Fig.4 Damage distribution in Omachi town due to the 1918 Omachi earthquake (Background map: Topographic map published in 1915).

## 5.2 被害状況と震災対応の時系列整理

被害調査報告、論文、新聞から被害と震災対応に関する項目を時系列で整理し以下に示す。新聞については被害状況と震災対応の様子が詳しく記載されており、報告書や論文に見られない内容を多く含んでいる。新聞記事に表れた流行性感冒の流行状況を時系列で整理し表2に示す。また、被害状況を時系列で整理し表3に示す。新聞記事の内容から発生日を特定して時間順に列べ、[ ]内に新聞の掲載日を示した。被害状況と震災対応のまとめを以下に示す。

**流行性感冒の流行状況:** 信濃毎日新聞における長野県の流行性感冒に関する初出記事は10月22日付で、長野師範学校で19日頃より続出し20日より11月1日迄全生徒を臨時休校したことが報じられている。10月26日には「悪風邪県下にも益々蔓延す」と報じられ、長野、松本、上田の大流行を伝えている。各警察署の調査報告(11月2日迄)によると、長野県の悪性感冒患者82,000人余うち北安曇郡は1,956人であることが報じられている。地震後の流行性感冒の状況については、地震翌日の11月12日の記事に「悪性感冒益々猖獗」と記されている。地震から4日後の15日には、県警察部の調査で総患者96,000人と増加したことが報じられている。

**復旧活動:** 道路は地盤の亀裂・崩壊や橋梁の被害により多くが車馬通行止めとなったが、地震から2日後の13日には大町池田間の県道、その他の不通も地震から8日後の19日までに復旧・解除されている。鉄道は信濃鉄道高瀬川鉄橋の石垣崩壊し大町一池田松川間が不通、自動車連絡をしている。また、鉄道電話も不通となっている。地震から3日後の14日始発列車より開通した。電力・電話は地震当日に大町局の電話交換機が故障し松本大町間不通、大町電燈は点火しなかった。この他、電力不通の結果精米も不能となり15日に再開したことが報じられている。

**流行性感冒下での避難および医療救護活動:** 大町町民諸村民は皆11日夜を野外で過ごし、寒気が激しく降雪の中火を厳禁され飢えと寒さに襲われた。また、流行性感冒に冒された人々も避難したが、薬局の戸棚等が震動のため破壊混交して投擲できずに高熱に苦しみ、流行性感冒患者には避難中容態急変して死亡したものもあることが報じられている。この他、長野赤十字社の医師看護婦は救護のため出張し、地震から2日後の13日長野出発同日大町着、翌14日より救護班は大町、社村、常磐村に分かれ戸別訪問的救護に従事したことが報じられている。

表2 新聞記事より作成した長野県における流行性感冒流行状況の時系列

Table 2. Chronological order of the pandemic influenza situation in Nagano prefecture based on newspaper articles

	月日	新聞記事[掲載日]
流行状況や対応	10/15	長師(※長野師範の略)校 15 日以来生徒の中に悪性の感冒に冒されるもの続出。19 日遂に 38 名に達しなお蔓延の徴あり。20 日より 11 月 1 日迄全生徒を臨時休校[10/22※流行性感冒に関する初出記事]
	11/2	悪性感冒各警察署調査報告合計 82,392 人 郡市別南佐 1,974 北佐 968 小県 5,998 諏訪 33,863 上伊 9,217 下伊 3,193 西築(未報告)東築及松本 10,374 南安 4,467 北安 1,956 更級 556 埴科 305 上高 151 下高 1,043 上水及長野 7,833 下水 502[11/9]
	11/3	流行性感冒死亡者長野市 5 人[11/9]
	11/4	流行性感冒死亡者長野市 10 人[11/9]
	11/5	流行性感冒死亡者長野市 6 人[11/9]
	11/6	流行性感冒死亡者長野市 6 人[11/9]
	11/7	北安曇郡内流行性感冒は市街地より漸次山間部落に侵入[11/9]
	11/10	松本各工場諸管公衛等死亡する者多く 10 月 7 日より 11 月 10 日迄の市民の死亡数は 33 名。この多くは感冒が原因[11/12]
	<b>11 月 11 日 2 時 58 分,16 時 3 分地震発生</b>	
	11/11	当地(※被災地)悪性感冒益々蔓延何處の家に行っても 2 人 3 人の罹患者を見ざるなく一家枕を並べて臥床,病性凶悪喉頭を冒し心臓麻痺或は肺炎で死亡する者間々あり[11/12] 悪風邪市より郡へ[11/12]
	11/12	大町医者の薬瓶薬種屋,薬瓶等滅茶滅茶となり薬瓶欠乏の結果大病人急病人を抱え地震で直接の負傷者等は見当たらないが流行性感冒のため病人続出[11/13] 岡谷地方流行性感冒一両日来漸次減退,製糸工場患者数 12 日現在約 5,000 人に減少。11 月 1 日より 10 日迄の同地方死亡者約 100 名内平野村火葬したもの 41 名,工女工男等の死体岡谷駅より輸送 17 名[11/14]
	11/13	長野赤十字社の医師看護婦 14 名 13 日長野出発同日午後 9 時半に大町着[11/14] 震害に伴う薬品の需要供給医療の万全を期すため警察部長課長技師技手等を随へ 13 日午後大町へ急行[11/14] 震害地の医療状況視察のため 13 日技師等出張調査,現在医師手不足なく薬種業者も 7 戸あり,何れも相当に貯蔵品があり投薬に事欠く事無し[11/15]
	11/14	赤十字社より出張の救護班,T 医師 14 日看護婦 3 名を従え社村方面,I 医師同 2 名を伴い大町,H 医師同 3 名を連れ常盤村方面へ臨時治療のため出張[11/15] 赤十字長野支部病院より出張の救護班町内を巡回し治療。T 医師 2 名の看護婦を従え常盤村社村方面に出張治療中[11/15] 赤十字社長野支部出張救護班 3 班に分かれ 14 日大町社常磐 1 町 2 村の戸別訪問的救療

	に従事。大町 63 人社 19 人常磐 9 人診察投薬。15 日も平村方面へ出動[11/16] 流行性感冒目下沈静時期患者も少なく軽症にて赤十字救護班の活動で充分なため県の罹災救助は殆ど手をつける所なし[11/16]
11/15	県下の流行性感冒学校 21,255 人工場 14,087 人病院 17 人其他多衆集合場所 2,602 人市町村 51,282 人合計 96,244 人,学校の休業 75 工場休業 11,警察署別岡谷 19,374 人上諏訪 12,161 人松本 10,188 人長野 7,492 人稲富 5,142 人上田 4,288 人(15 日県警察部調査),飯田町の火葬場は焼切れないで棺桶が駐車場の札場のように列を作り焼いている[11/16] 大町に於ける薬種商丁機類に幾分被害があるが総ての薬品は不足なく当分供給に差支なし[11/16]
11/16	震災地被害民救護のため赤十字社長野支部 2 名看護婦 8 名 16 日午後 4 時の列車にて急派[11/14]
11/21	県下の流行性感冒は病勢頗る熾烈にして容易に減退するに至らず患者総数十万死亡者又 1000 余名,県衛生課 21 日より各署に命じて検病的戸口調査を行い各戸に予防治療上の注意を与える[11/22] 21 日現在の県下悪性感冒患者死亡者数は 1,471 人その内訳学校 104 人工場 147 人病院 21 人其他多数人数集会所 1 人市町村 1,196 人,20 日より 22 日迄の患者数は学校 30,056 人病院 17 人其他 2,602 人市町村 53,312 人合計 100,829 人,学校休業 91 工場休業 16[11/23]
11/25	下伊那郡飯田の流行性感冒は容易に下火にならない。町役場受付毎日死亡届と埋葬火葬届で賑わい 11 月に入ってから最早感冒に冒された亡者が 80 人。飯田警察署管内 256 人の亡者が一列縦隊[11/26]
学	11/2 悪性感冒各警察署調査報告学校 20,033 人,休業となった学校 41[11/9]
校	11/7 北安曇郡七貴及び陸郷村南各小学校 7 日迄に患者 40 名休業の運び[11/9]
	11/11 松本地方市内全部の各学校は回復したがなお欠席生徒数は稍多い[11/12] 長野市の感冒は漸く終息に傾き休業中の各学校順次開校。11 日は中学校も授業を始め他の小学校も晴天を待って挙行[11/12]
	11/13 小県郡内至る處流行性感冒に襲われつつある,各町村立学校現況就学児童 20,769 名のうち罹患者 7,595 名。職員 528 名の内罹患者 234 名。更に在籍児童数の半数以上。風邪引き患者を出したのは県,豊殿,塩川,丸子,武石,長窪,川邊,泉田,浦里,西塩田の各小学校。為に一日若しくは数日全部授業を休止したものと上田男女,長,神川,川邊,塩川,泉田,大門,滋野,富士山,塩尻,浦里の各小学校[11/14]
工	11/2 悪性感冒各警察署調査報告。製糸工女の罹病者が大多数,工場 13,482 病院 16 その他多数集合場所 2,454 休業となった工場 9[11/9]
場	
病	
院	

表 3 新聞記事より作成した被害の時系列

Table 3. Chronological order of the damage based on newspaper articles

	月日 新聞記事[掲載日]
道路	<p>11/11 池田大町間県道岩淵と称する断崖絶壁崖落し車馬の交通不通[11/12]            県道糸魚川街道池田大町間社村丹生子附近にも巾 5 分長さ 2,30 間亀裂[11/12]            大町街路落下した石瓦で通行出来ず[11/12]            社村地籍糸魚川街道 60 余間亀裂,大町と社村との境界農具川橋の橋脚石垣 60 間破壊,社村松崎下の県道数十間地氈り決壊[11/12]            美麻村道路 200 間決壊人馬の交通途絶,大町より三日町に通ずる道路約 5 丁決壊[11/13]            北城南小谷間道路の隧道岩石崩壊電柱倒れ交通一時途絶間もなく復旧[11/13]</p> <p>11/13 大町池田間の崩壊箇所も午後に至り開通[11/14]</p> <p>11/19 一般交通も一時禁止,車馬通行止めも 19 日朝全く解除[11/20]</p>
鉄道	<p>11/11 午後 2 時 20 分の列車高瀬川鉄橋に至るや石垣崩壊,終列車は松川大町に於て行き止まり松川大町間不通,大町駅構内亀裂各所に生じ石垣数十間崩壊[11/12]            信濃鉄道線路には故障が生じなかったが,万一を慮り午後 7 時松本駅発列車は松川迄の運転その後は運転休止,鉄道電話午後 4 時迄通じたがその後不通. 松川以北の状況知る由なし,大町駅貨物ホーム倒壊,高瀬川鉄橋危険[11/12]            大町停車場構内亀裂貨車 3 輛脱線. 石垣,壁,硝子戸等の破損数多く[11/12]</p> <p>11/12 信濃鉄道松川駅より折返し運転. 不通箇所自動車連絡,12 日より荷客は取扱を禁止[11/13]</p> <p>11/13 信濃鉄道大町仏崎間不通箇所 13 日午後開通予定も其後強震にて軌道破損. 仏崎大町間徒歩連絡 14 日一番列車より開通予定[11/14]</p> <p>11/14 信濃鉄道 12 日来復旧工事の結果 13 日夜終り 14 日始発列車より開通[11/15]</p>
電気	<p>11/11 電燈は一つも点火せず震災の大町は更に暗黒の大町[11/12]</p> <p>11/12 大町地方電力不通の結果精米不能[11/13]            大町 12 日夜より電燈を点燈[11/13]</p> <p>11/15 大町警察署大町役場協力して安曇電燈会社より電流の供し精米業者を督励し白米当分差支えなし[11/16]</p>
電信電話	<p>11/11 通信機関を失った大町郵便局町中に天幕を張り小屋を掛け交換機を導入し通話開始,地区との通話止り市内電話不通[11/12]            大町局局舎破損ヶ所あり. 電話交換機故障を生じ松本大町間の電話は不通[11/12]</p> <p>11/12 松本岡谷方面よりの電信電話の輻輳甚だしい. [11/13]            大町松川間電柱倒れ電線切断電話不通,郵</p>

	<p>便物危険区域徒歩連絡手押しトロに搭載し運搬[11/13]</p>
流行性感冒流行下での避難	<p>11/11 中学校寄宿舎井水湧出せず炊飯不能,且つ病気の生徒等あり困難[11/12]            町民の大部分町の中央部に畳幕戸板等にて急設の小屋を作って打ち震えている有様,一切火を厳禁,避難民の内には病人あり,寒気激しく降雪飢え恐怖. 町民は気も狂はんばかり[11/12]            例の風邪に冒された人が家人に助けられて唸り唸り避難するものもあり[11/12]</p> <p>11/12 罹災民老人子供松本地方に避難したものの多くが汽車不通のため途中非常の困難,避難民中流行性感冒に苦しむ者はいるが医師の薬局業種屋の戸棚等震動のため破壊或は混交した為劇薬か毒薬か判明せず投薬できず患者高熱に苦しむ惨状[11/13]            町民は全部今なお戸外に避難[11/13]            多数の流行性感冒患者中には地震の為に避難中に容態急変して死亡したものもある. 多くの避難民チラチラ降る雪の中にガタガタ震えながら不安の夜を明かした[11/13]</p> <p>11/13 大町町民 13 日夜皆仮小屋の中蠟燭を灯し恂々として警戒に怠りなし[11/14]            大町から松本へ来る避難民は非常なもので子供老人病人学生なども引き揚げてくる[11/14]            避難中感冒に罹るもの続々あり天幕内に医師を招いてそれぞれ治療を講じている[11/14]            信濃鉄道により松本方面へ避難するもの多く毎列車共に満員の混雑,松本方面知人がいないものは被害が比較的少ない木崎湖畔平村鹿嶋方面に避難するものあり[11/14]</p> <p>11/14 14 日午前 3 時より降雨,仮小屋盛に漏雨し戸外に避難した町民濡れ鼠,八坂村桐窪社村松崎常光寺及び常盤村上一本木等の村民仮小屋に住居. 降雨甚だしく何れも閉口[11/15]</p> <p>11/15 大町町民総て野外生活を営んでいる[11/16]</p> <p>11/16 半分以上仮小屋を引払い自宅に入る[11/17]            今月上旬より流行の風邪で臥床の処 11 日の強震で寝間の壁が崩落,命からがら大町五日町にて治療中 16 日遂に病悪化し死亡[11/21]</p> <p>11/17 避難民 17 日警察署の注意に依り仮小屋より本宅に引移る. 居住絶対不能のもの仮小屋に住居を継続[11/18]</p> <p>11/18 大町 S 方では妻が流行性感冒に罹って肺炎と変じていたため家を逃げ出さなかった. [11/19]</p> <p>11/19 住家の修理完成し掛小屋 4 戸を余すのみ. 他は全部撤去[11/19]</p>

## §6. まとめ

1918年大町地震について、被害調査報告、地方新聞を収集し、被災と対応を整理した。新聞記事については既往の調査報告にない被害状況が多く記載されている。明らかにされた主な項目は以下の通りである。

- 1) 長野では1847年善光寺地震以来の大きな地震であり、被害が大きく報じられている。大町地方の住家は善光寺地震後に長野市で2階建てが規制された影響で低層が多かったため、住家の大被害は限られた。地震による人的被害は少なかったものの、鉄道や道路の被害、軽微な建物被害は北安曇郡各所で見られた。
- 2) 流行性感冒大流行下での11月中旬の地震であり、降雪と寒さが厳しい中住民は余震のため野外で避難している。流行性感冒のため病人が続出し避難中感冒に罹るもの、避難中容態が急変して死亡したるものもあることが報じられている。
- 3) 地震直後は震動による薬瓶の破損のため薬品が不足した。発災から3日後に長野赤十字社が被害の大きい社村、大町、常盤村へ医師などを派遣し戸別訪問的救療を行っており、流行性感冒が沈静化したことが報じられている。
- 4) 大町は信濃鉄道起点の松本市との結びつきが強く、罹災民の中には老人と子供を松本に避難させる住民が多かった。松本方面へ避難するもの多く每列車共に満員の大混雑し、大町―池田松川間不通のため途中非常に困難したことが報じられている。

## 謝辞

本研究は科学研究費補助金(基盤研究(C)18K04651)の助成を受けたものです。また、査読をしてくださった河内一男氏と編集担当の加納靖之氏から有益なご意見を頂き、本稿の内容を改善することができました。記して謝意を表します。

対象地震: 1918年大町地震

## 文献

- 速水融, 2006, 日本を襲ったスペイン・インフルエンザ, 藤原書店, 474pp.
- 堀越三郎, 1919, 長野県大町地方震災調査報告, 建築雑誌, **33(389)**, 28-30.
- 堀越三郎, 1921, 大町地方震災後家屋建築及修理に関する注意, 震災予防調査会報告, **94**, 13-15.
- 内務省衛生局, 1922, 流行性感冒, 倭文社, 484pp.

- 中村左衛門太郎, 1918, 大町附近の地震に就きて(第一報), 気象集誌, **1**, **37(12)**, 390-401.
- 中村左衛門太郎, 1919a, 大町附近の地震に就きて(第二報), 気象集誌, **1**, **38(2)**, 41-46.
- 中村左衛門太郎, 1919b, 大町附近の地震に就きて(第三報), 気象集誌, **1**, **38(5)**, 147-151.
- 大森房吉, 1921, 大正7年信州大町地方激震調査報告, 震災予防調査会報告, **94**, 16-69.
- 大森房吉, 1922, 大正7年信州大町地方激震調査報告(第2回), 震災予防調査会報告, **98**, 23-31.
- 大森房吉, 1923a, 信州大町地方の地震に就きて, 地学雑誌, **31(1)**, 1-16.
- 大森房吉, 1923b, 信州大町地方の地震に就きて(承前), 地学雑誌, **31(2)**, 89-97.
- 坪井誠太郎, 1922, 信州大町地震調査概報, 震災予防調査会報告, **98**, 13-21.
- 宇佐美龍夫・石井寿・今村隆正・武村雅之・松浦律子, 2013, 日本被害地震総覧, 東京大学出版会, 271-273.



付録 新聞記事一覧

◎印は大見出し, ○は小見出し

月/日	面	見出	要約・説明
10/22	5	○師範学校臨時休校 感冒流行の為	長師(※長野師範の略)校にては 15 日以来生徒の中に悪性の感冒に冒されるもの続出し 2 名より 6 名に、10 名に、19 日には遂に 38 名に達し尚ほ蔓延の徴あるより軍隊等にて該病の全營に蔓延せし例もあり、校医原赤十字副院長の注意もありて 20 日より 11 月 1 日迄全生徒を臨時休校せしめ一方発病生徒は別室に隔離して武重、小林両医師毎日往診し健康状態にある全生徒ホーサン水にて咳嗽を行はしめ専心之れが一掃に尽力しつつあるが症状は主として夜間に発熱し 38 度乃至 40 度位迄上がり鼻血を吐出し体質に依りて多少の差あるも大抵は 3 日にして減熱し 5 日位にして健康状態に復す
10/26	5	◎悪風邪県下にも益々蔓延す 松本付近最も猖獗也 風邪の神の大荒れ 而かも悪性 遊郭迄襲ふ	松本市に魔の手を広げた風邪の神の勢いは素派らしいもので 25 日迄の調査によると病床にあるものが約 5,600 人と云ふ有様である其内各学校では 200 名かの欠席者を筆頭に各工場なども沢山に襲はれて閉鎖しようとするものさへある殊に松本横田遊郭では 100 人ばかりの娼妓に感染してドッと枕を並べたので楼主の驚きは一方でなくて今では店を張つて居る娼妓の数 12 軒にタッタ 7,8 人と云ふのである
		○郵便局に続出	長野郵便局も風邪の為欠勤者多く朝来欠勤届は続出され居れり通信課現業員にも勃々冒されたるものあり
		○上田大流行 各学校の恐慌	上田町にも近来流行性感冒に罹るもの多きが上田中学校生徒中 3,40 名のうち 7,8 名は襲はれ居れり又上田女子小学校西分教場生徒間にも大に流行の兆あり尋常 2 年級は現在半数の休校者を出したり
11/9	5	◎患者 82,000 余 県下全体に亘る大流行 諏訪松本等工女の多い所に多い	悪性感冒は猖獗を極め今や全県是が発生無きを見ざる有様となれり本県警察部に於て本月 2 日迄に各警察署より調査報告を総合せるものに依るに合計 82,392 人郡市別南佐 1,974 北佐 968 小県 5,998 諏訪 33,863 上伊 9,217 下伊 3,193 西築(未報告)、東築及松本 10,374 南安 4,467 北安 1,956 更級 556 埴科 305 上高 151 下高 1,043 上水及長野 7,833 下水 502 諏訪郡尤も多く次いで東筑摩松本市等なるが製糸工女の罹病者が大多数を占め居る結果、種別学校 20,033 人、工場 13,482 病院 16 其他多数集合場所 2,454 市町村 46,211 人、流行のため休業となれる学校は県下を通じ 41 校工場 9 に達し居れり
		○北安の感冒	北安曇郡内流行性感冒は市街地より漸次山間部落に侵入し七貴及び陸郷村南各小学校に於ても 7 日迄に患者 40 名休業の運び
		◎悪感冒の産む悲惨 下層階級は生活上に大打撃 救済機関設置の急務	流行性感冒死亡者長野市 3 日 5 人、4 日 10 人、5 日 6 人 6 日 6 人といったやうに倍額若しくは 3 倍にも達して居る日がある、長野市下層階級に在る者で此悪性感冒に罹らぬ者はなく大切な稼ぎ人に病みつかれた上に幾人もの家内が枕を列べて医療の手当だも受くる能はず
<b>11 月 11 日 2 時 58 分、16 時 3 分地震発生</b>			
11/12	号外	○大町食料品昂騰	池田大町間の県道岩淵と稱する断崖絶壁 11 日午後 4 時 5 分の強震にて崖落し車馬の交通不通、常磐、社、平諸村民は皆 11 日夜を野外にて過ごせり
11/12	1	○人家土蔵の倒壊	町中の家の戸障子は全部外れ最も甚だしきは東町家屋 3 棟潰倒、九日町陶器商白木屋の土蔵 2 棟、下仲町龍立屋土蔵潰れたり裁判所被害甚だしく又電燈変圧器も各所墜落したる
		○高瀬川鉄橋北詰破壊	信濃鉄道によりて大町より避難する者非常に多く乗車したるも高瀬川鉄橋に至るや北側の石垣崩壊したるため同所にて立往生、終列車は松川大町に於て行き止まりとなり松川大町間は不通、大町駅構内は亀裂各所に生じ石垣数十間崩壊
		○大中の損害	通学及び小学校等は休校の止むなきに至り、中学校標本室標本も殆ど全部破壊、同校寄宿舎の井水湧出せず炊爨を為す事能はず且つ病気の生徒等あり困難
		○避難民の惨状	町民の大部分は町の中央部に畳幕戸板等にて急設の小屋を作りて打ちふるい居る有様一切火を厳禁されある事とて全町黒暗々たり避難民の内には病人あり、大町の内停車場通り五日町八日町中町殊に被害多き模様、寒気激しく降雪さへある事とて飢えと恐怖を寒さに襲われたる町民は気も狂はんばかり
		○平村其の他数村	平村 3 戸潰倒附近部落の被害も夥しく池田、会染、松川等も可成の被害あり、会染役場机其の他転倒して破壊せるものあり常磐村役場金庫転げ出したり、社村宇山の寺土蔵も半潰に等しき迄に傾きたる
		○要所に亀裂 鉾持棧道危し	上伊那郡高遠町鉾持棧道上の保安林中巾 1 尺乃至 3 尺の亀裂

付録(続き)

月/日	面	見出	要約・説明
11/12	5	◎昨晩来の大地震 震源地は有明山系 震動尚止まず 大町の被害最も多く 町民恟々として尚野外に在り	11 日未明の地震は午前 3 時に高瀬川入或は針の木峠方面より揺れ来れる強きものありて次で 3 時半頃と数回ありたる、大町字九日町雑貨商白木屋事北澤伊平の奥の土蔵 3 棟は 3 時の際倒潰、町内到的處の土蔵に亀裂を生じたる、人家屋上の瓦が街路に落下、寺院の墓石の倒れる、大町中学理科室棚上の機械が床上に落ちて破損、大町停車場構内には亀裂を生ぜざる貨車 3 輛は線外に脱線飛出したるを始め石垣、壁、硝子戸等の破損せるもの数多く、同日午前中調査被害家屋 20 余戸、屋外に避難し居り警察署にては町内は勿論附近村落に手分けにて出張火を焚く事を厳禁するなど警戒に務め居れり、小学校中学校は何れも同日休校したり人畜には被害なし
		○全町民の野外住居	大町地方人心は恟々たる有様にて町民は殆ど全員屋外に出て街路戸や畳を敷きて座し居り、大町署員調査郡役所壁は大半崩れ其側なる記念館の陳列棚は落ち瓶入れの陳列品は破砕、小学校職員室と便所附近への地上巾 5 分長さ 3,40 間の亀裂、大町駅のホームに亀裂を生じたる外貨車庫の土は 5 部位低下し崩れたる土の下に貨車 1 輛は埋没、県道糸魚川街道池田大町間社村丹生子附近にも巾 5 分長さ 2,30 間の亀裂、木崎湖畔夏期大学附近の石垣も長さ 10 余間崩れり、大町附近社村付近尤も損害多く、葛温泉附近山中 5 寸余の積雪
		◎全町民避難 折柄の風雪に飢餓迫る 暗黒の大町 天幕の中で電信電話の交換 吏員も行衛判らず	11 日午後の大震動通信機関を失ひたる大町郵便局町中に天幕を張りて小屋を掛け交換機を引入れ通話を開始、単に局と他地区との通話に止り市内電話は一も通ずる能はず、町民の殆ど全部は寒風吹き頻り剩へ雪をも飛ばす中を子を抱き老を助て街路の中央には 1 戸 1 名位が警戒のため居残る位の有様、街路落下する石や瓦に通行出来ず、中央より南部は下水潰れて氾濫し一時は水害さへ見る町民の尽力にて辛ふじて掘鑿通水、電燈は一つも点火せず震災の大町は更に暗黒の大町
		○県道破壊 再度の強震にて	再度の地震にて午後五時迄に判明社村地籍県道糸魚川街道 60 余間亀裂を生じ大町と社村との境界に在る農具川橋の橋脚石垣 60 間破壊、社村松崎下の県道数十間地這りのため決壊し
		○対話中 辛く逃げ出す炊出どころか	側面の壁土落ち来り署員諸共上より土を浴び辛ふじて署外に逃げ出したる程、例の風邪に冒されたる人が家人に助けられて唸り唸り避難せるものもあり
		○鉄道危険 汽車運転中止	信濃鉄道線路には故障生ぜざるも万一を慮り午後 7 時松本駅発列車は松川迄の運転其後は運転休止、鉄道電話は午後 4 時迄には通じたるも其後不通松川以北の状況は知る由なき、大町駅は貨物ホーム倒壊、高瀬川の鉄橋危険
		○電話一時不通	11 日午後 4 時の地震大町局は局舎破損ヶ所ありて電話交換機に故障を生じ松本大町間の電話は不通、其後に至りて開通の途立ちたり
		6	○悪性感冒 益々猖獗
欄外	○悪風邪 市より郡へ	松本地方市内全部の各学校は回復したるが尚欠席生徒数は稍多し各工場諸菅公衙等未だ恢復とは謂ふ能わず、患者は数において減じたれども余病を起して死亡する者漸く多く 10 月 7 日より 11 月 10 日迄の市民死亡数 33 名	
	○各学校下火	長野市の感冒は漸く終息に傾き休業中なりし各学校共順次に開校し 11 日は中学校も授業を始めたも欠席少なく殆ど復旧したり、各小学校も目下の欠席者数 100 名内外にして延期中なりし校庭運動会は晴天を待つて挙行すべしと、猶長師《長野師範学校》は帰校生の中罹病者続出し目下 15,6 名の臥床を出し居る	
11/13	1	○避難民流言に迷ふ	12 日午後 4 時迄の調査大町被害戸数 1,300 戸の内倒壊以外の被害は住宅 1,668 棟其他の建物 1,276 棟、大町に次ぎ被害の多かりしは社村午後 4 時の激震際倒壊住宅 3 戸半潰 37 棟其他の被害家屋 22 棟屋根壁等の剥離せるもの 49 棟、美麻村にては字新行区に土蔵住宅の破壊せるもの道路 200 間決壊して人馬の交通途絶、大町より三日町に通ずる道路も約 5 丁決壊、平村字大出の渋沢山は 5,60 間崩壊、八坂村山崩れ 2ヶ所半壊家屋 2 戸あり
		○大町局の目覚ましき活動	大町郵便局 11 日午後より野外に出て事務を取扱電話交換機は之を戸外に搬出する事能はざる迄開迄持ち出し数本の電柱を以て交換事務を取扱、見舞の郵便電信は山の如く配達夫は懸命になりて奔走、罹災民中には老人子供を松本地方に避難せしむるもの多きが汽車不通のため途中非常の困難を感じ居れり、避難民中流行性感冒に苦しむものあれども医師の薬局業種屋の戸棚等何れも震動のため或は破壊し或は混交したるため何れが劇薬か毒薬か更に判明せざるより投薬する殊叶はず患者高熱に苦しむの惨状
		○汽車猶不通	信濃鉄道松川大町間復旧工事を急ぎ延長 1 哩余に亘り地盤低下して容易に撓らず、13 日は高瀬川南岸仏崎まで列車を運転する筈なり

付録(続き)

月/日	面	見出	要約・説明
11/13	5	◎全町破損して 湖底に亀裂 山崩れ 5,60 間 線路悉く凸凹 強震ときどき来る	堤防石垣橋梁等は全部破損し町内の街路は至る處に亀裂,常盤村字清水上一本木地方亦大町の被害に譲らず潰家 1 半潰 3 土蔵 240 棟中壁の崩落せざるは 1 棟もなき,北城南小谷間道路の隧道は岩石崩壊し電柱倒れ交通一時途絶間もなく復旧,大町局員は野外にて事務,松本岡谷方面よりの電信電話の輻輳甚だしく局員は不眠不休の奮闘,町民は全部今尚戸外に避難
		○線路デコボコ 汽車尚不通	信濃鉄道松川池田間高瀬川前方線路約 1 哩に亘り地上より年寸位低下列車は松川駅より折返し運転不通個所は自動車にて連絡,12 日より荷物は取扱を禁じたり,大町松川間は電柱倒れ電線切断されて電話不通,郵便物は危険区域は徒歩連絡にて手押しトロに搭載辛ふじて運搬
		◎雪に凍る避難民 大町 中学出火せんとす 木崎 湖底に亀裂を生ぜりとの説 何時止むか見当附かず	大町民家屋根板を押える為に大小無数の石が載せてあるこの石が地震と共に落下,多数の流行性感冒患者中には地震の為に避難中に容態急変して死亡したるものある,多くの避難民は思ひ思ひの場所に陣取りチラチラ降る雪の中にガタガタ震えながら不安の夜を明かした,大町中学校理化学室博物標本も滅茶滅茶, 11 日夕刻から中学校寄宿舎を開放して生徒を帰宅,霊松寺も損害少なからず
		○天幕下ので不眠不休 大町局の活動	電話 12 日局舎内にて交換電信天幕内にて取扱ひつつあり 11 日の発信受付数 50 着信 90 を算し 12 日の午前 11 時迄には発信 15 着信 30 あり,郵便物は鉄道不通の為 11 日夜来到着せずトロを以て連絡通送の計画
		○屋外の執務	大町郡役所警察署郵便局を始め総ての官公署今尚ほ屋外にて事務を取り居れり
		○池田町被害	池田町字堀田正科区土蔵屋根瓦墜落 6 棟家屋の土壁の落ちたるもの 1 戸,社村三嶋神社と竈神社との石灯籠 4 基倒れ,松川村緑町にて土蔵の瓦落ちしもの 1 棟屋根石の落ちしもの 4 戸,常盤村人家 1 戸全潰 2 戸半潰
		○被害高 家屋倒壊 15 損害 15 万円	12 日正午迄大町警察署調査同町損害高は住宅倒壊 5 半壊 12 土蔵倒壊 4 同半壊 其の他を合し 15,其他家財電燈等の損害
		○精米欠乏	大町地方震災の為米が不足電力不通の結果精米不能
		○薬品欠乏す	大町医者薬壘薬種屋薬瓶等滅茶滅茶となりたる薬壘欠乏の結果大病人急病人を抱へたる人々は閉口し居り,地震にて直接の負傷者等は見当たざるも流行性感冒のため病人続出の有様
		○漸く点燈す	大町 12 日夜より電燈を点ずる但大地震の際には直に消火し得る装置をなす次第
○中村博士出張	有明山系強震実地踏査の為震災予防調査会より中村博士 12 日夜夜行にて大町へ出向		
11/14	1	○村落被害	12 日午後 11 時及び 13 日午前 4 時強震大町附近にて最も被害多きは常盤村住宅の倒壊 1 棟同半潰 20 棟大破損 100 棟破損 300 棟其他建物破損 500 棟道路堤防の決潰十数ヵ所,八坂村土蔵半潰れ 4 棟其他道路堤防の決潰数知れず,社村物置半潰 3 戸,美麻村地籍県道大町街道字天狗下巾 9 尺長さ 6 間の橋梁墜落通行途絶,平村字野口より葛の湯に至る里道内墜落橋梁 3 ヶ所決潰道路は十数ヵ所此処を是非共通行せざるべからざる人は綱を腰につけ辛ふじて通行しつつあり,長野赤十字社の医師及び看護婦 14 名は 13 日長野出発同日午後 9 時半に大町に着せり,佐藤警察部長其他 13 日午後 10 時大町に到着同夜部長等は警察署の前に造れる仮小屋に泊まれり
		○霊松寺山の亀裂	霊松寺山 13 日一面に亀裂生じ霊松寺危険の状態
		○流言飛語老婆の酒機嫌	大町町民 13 日夜も皆仮小屋の中に蠟燭を灯し恟々として警戒怠りなき
		○郵便局と地震の角力	大町郵便局 13 日電報発信 120 着信 150 中継 70 電話 50 通話平常に比し 5 倍乃至 6 倍,本局より出張嶋田手記伊藤大町局長協力にて通信事務に従事地震の為に破壊液体電池を総て乾電池に代へ地震に対抗しつつあり,最も困難を感じるは配達夫にて何れも小屋住なれば始めて配達をなすと同じ事なれば各自小屋に氏名を掲載して置くが便利なるべし
		○休校 12 校	小県郡内至る處流行性感冒に襲はれつつある,各町村立学校現況就学児童 20,769 名のうち罹患者 7,595 名職員 528 名の内罹患者 234 名更に在籍児童数の半数以上風邪引き患者を出せるは県,豊殿,塩川,丸子,武石,長窪,川邊,泉田,浦里,西塩田の各小学校為に一日若しくは数日全部授業を休止せるもの上田男女,長,神川,川邊,塩川,泉田,大門,滋野,富士山,塩尻,浦里の各小学校
5	○避難民到来 松本の混雑	大町から松本へ来る避難民は非常なもので子供老人病人学生なども引き揚げてくる	

付録(続き)

月/日	面	見出	要約・説明
11/14	5	○県道破壊す 湖水に陥落	12 日夜 10 時迄に大町警察署の調査平村地籍夏期大学下県道 7 丁の間に亀裂,木崎湖面に向つて約 5 寸程陥没,社村地籍県道三生兒下県道約 70 間決潰し車馬の通行全く途絶,常盤村住家倒潰 1 戸半潰 2 戸土蔵の壁の落ちたるもの 240 棟山崩れのため交通途絶せる場所 1ヶ所,12 日夜は電燈に故障を生じ終夜点燈を見ず
		○今までない最強震 町民又々避難	避難中感冒に罹るもの続々あり天幕内に医師を招きて夫々治療の途を講じ居れり
		○町民八方に離散 恐怖更に増す	13 日朝より中途まで通じたる信濃鉄道により松本方面へ避難するもの多く毎列車共に満員の大混雑,松本方面に知己を有せざるものは被害比較的少なき木崎湖畔平村鹿嶋方面に避難するものあり
		○またまた汽車不通 線路破壊す	信濃鉄道大町仏崎間の不通箇所 13 日午後開通予定も其後の強震にて又復軌道破損し仏崎大町間は徒歩連絡されど 14 日の一番列車より開通予定
		○屏風の家蚕籠の小屋 数軒共同生活	各役所は依然庭前或いは街路仮小屋を設けて事務を執りつつあり町民は全部街路又は田圃に屏風或いは蚕籠を以て小屋を作り 6,7 軒共同にて避難し小学校に於ては庭前に仮奉安庫を設け御真影を奉安し職員昼夜交代にて護衛し居り授業は 16 日より開始する予定なり
		○道路漸く通ず	大町池田間の崩壊箇所も午後に至り開通
		○大森博士来信	実地踏査のため目下草津温泉に漸在白根山地質調査に出張中なりし大森理学博士は 13 日同地に急行
		○中村博士調査	東京中央气象台技師中村左衛門太郎氏 12 日夜行列車にて中央線により来り松本駅に下車松本測候所に立寄り地震記録を調たる後直ちに其處を出て午前 10 時 25 分北松本駅発信鉄列車により大町の実地調査に向ひたり
		○佐藤部長急行	震害に伴ふ薬品の需要供給医療の万全を期するため警察部長課長技師技手等を随へ 13 日午後大町へ急行
		○救護班派遣	震災地被害民救護のため赤十字社長野支部医員 2 名看護婦 8 名 16 日午後 4 時の列車にて急派
○10 日間に火葬 40	岡谷地方流行性感冒は一兩日来漸次減退製糸工場患者数 12 日現在約 5 千人に減じたるが 11 月 1 日より 10 日迄の間に於ける同地方死亡者は約 100 名内平野村火葬に附したるもの 41 名工女工男等の死体の儘岡谷駅より輸送されしもの 17 名		
11/15	1	◎大森博士は神様 演説を聴いて漸く安心	大町小学校に於る講演午後 7 時に始まり地震の原理より説き起し今回の大地震に就て詳細なる講演あり最後に今後怖るに足らずと云ふ
		○救護班活動	赤十字社より出張せる救護班 T 医師は 14 日看護婦 3 名を随え社村方面,I 医師同 2 名を伴ひ大町,H 医師同 3 名を連れ常盤村方面へ臨時施療のため出張
	5	◎ああ無情の雨や避難民濡れ鼠 夜来強震 1 回微震頻々 掛け小屋はさかんに雨漏り	14 日午前 3 時より降雨となりたれば仮小屋よりは盛に漏雨し戸外に避難せる町民は濡れ鼠となり,郡役所にては松本より桐油紙を購入し貧困者貸与,八坂村桐窪社村松崎常光寺及び常盤村上一本木等の村民も仮小屋に住居し居る降雨甚だしく何れも閉口
		○損害額 75 万円	福島薄井両酒造店平林醬油店被害甚大,村落にて被害甚だしきは社村松崎常光寺部落八坂村桐窪
		○大森博士一行	知事大森博士と共に 14 日午後零時半大町に到着大森博士直ちに調査に着手,警察部長は 14 日早朝より大町の被害調査平村方面に出張同日夕刻帰長
		○信濃鉄道開通	信濃鉄道 12 日来不眠不休復旧工事を急ぎたる結果 13 日夜に入り講じ漸く終り 14 日始発列車より開通
		○赤十字の活動	赤十字長野支部病院より出張救護班町内を巡回し施療 T 医師 2 名の看護婦を従へて常盤村社村方面に出張施療中
		○医薬不足なし	震害地の医療状況視察 13 日技師等出張調査現在の医師手不足なく薬種業者も重なるもの 7 戸あり何れも相当に貯蔵品あるを以て投薬に事欠く事無し
11/16	5	◎震動尚ほ熄まず 但し概して微震也 大森博士 当分滞在して視察	状況調査のため出張中警察部長保安課長一行 15 日午後 1 時大町発の列車にて引揚,大森博士 15 日常盤村方面の視察尚ほ当分滞在の予定なり
		○食料薬品	大町警察署大町役場協力して安曇電燈会社より電流の供給を円滑ならしめ精米業者を督励し白米には当分差支なき,技手大町に於ける薬種商全部調査丁機類幾分被害あり不足の物あるも総ての薬品は毫も不足を告げず当分供給に差支なき
		○油紙交付	地震のため家屋倒潰に至らざるも破損せるもの多く中には軒傾き壁落ち屋根破れて雨露を凌ぐ由なきより油紙を交附して差向き隙間洩ると風や雨を防がしめつつあり
		○救護 3 班	赤十字社長野支部より出張救護班 3 班に分かれ 14 日大町社常磐 1 長 2 村の戸別訪問的救療に従事大町 63 人社 19 人常磐 9 人診察投薬 15 日引続平村方面出動

付録(続き)

月/日	面	見出	要約・説明
11/16	5	○警察部長	警察部長 14 日地方課長と保安課長大町署長従へ大町被害状況視察,諸官衙公署を歴訪自動車にて平村木崎湖県道の裂線被害民の実状視察正午大町引返午後知事の行に投せり,知事 14 日昼食後部長課長郡長署長と郡役所警察署にて被害状況聴取,中学校に至り理科学機械損害状況視察午後 4 時 20 分大町駅発列車帰庁
		○罹災救助の要なし 職工不足が困る	震災地罹災者救助の為め出張 14 日夜帰庁地方課長災害は火災と異なり小屋掛材料もあり食料の欠乏も杞憂,衣服も家屋より取出し来り不足を感じず,流行性感冒目下沈静時期にて患者も少なく且つ軽症赤十字救護班の活動にて充分なるため県の罹災救助は殆ど手を付くべき所なく,社村 5 戸小屋掛を給する必要,其他 14 日の降雨に際し雨漏りのするものあり商店に桐油無かりし為松本市より購入必要な者に貸與,今後困難を予想さるるは瓦職左官,鳶,大工等の家屋修復に必要な職工の供給
		○上水内の被害	上水内郡日里村字御山里土蔵 1 棟倒壊同郡水内村付近の山は数ヶ所に亀裂を生じたるが被害は軽微人畜に被害なし
		○鉾持遂に崩落す 県道交通杜絶	上伊那郡高遠町地籍県道杖突街道字鉾持除の地辻り 13 日夜来の降雨にて亀裂口へ盛に雨水浸入 14 日正午頃危険に瀕したり夕刻に至り其の一部は遂に崩落して県道の交通は車馬を通ずるに至らずして杜絶
		◎老爺地震を凹ます 只一人踏止つて 営業継続 出張の学者役人大助かり	大町町民総て生た心地無く野外生活を営んでいる,上仲町旅人宿 13 日震源地調査のため出張した中央气象台中村理学士警察部長泊
		○悪風邪 総患者 96,000 人	15 日本県警察部調査県下流行性感冒学校 28,255 人工場 14,087 人病院 17 人其他多衆集合場所 2,602 人市町村 51,282 人合計 96,244 人学校の休業 75 工場休業 11 警察署別岡谷 19,374 人上諏訪 12,161 人松本 10,188 人長野 7,492 人稲富 5,142 人上田 4,288 人,飯田町の火葬場は焼切れないで棺桶が駐車場の札場如に列を作って順繰りに焼いて居る有様
11/17	5	○地震に馴れた町民	人々半分以上は仮小屋を引払ひて自宅に入れり
		○大町区裁判所復築	庁舎大破損大町区裁判所目下応急工事
11/18	1	○大町地震被害甚大 目下調査中	郡役所警察署役場員等は総出にて震害調査中県技手の 16,17 日の調査報告居住絶対不能 61 戸,郡道八坂街道社村地籍字清音の瀧附近の山上より山腹に亘り長さ数十間巾 4 尺乃至 5 尺大亀裂 17 日発見,大町霊松寺山にも大亀裂,避難民 17 日警察署の注意に依り仮小屋より本宅に引移り居住絶対不能のもの仮小屋住居継続
11/19	3	○大町震災の損害調 大町と社村	16,7 の両日県技手が大町社村調査大町総戸数 1522 戸の内速に大修理を為さざれば居住不能のもの 61 戸,社村総戸数 200 余名の内速に大修理を為さざれば危険のもの 8 戸,建物損害左大町中学校修繕費 7 千 793 円大急工事費 570 円大町小学校損害 2,500 円備品費 1,500 円郡役所損害 990 円大急工事費 67 円社村常光寺分教場損害 1000 円備品費 250 円大町王兒神社損害 1000 円大町区裁判所損害約 3,500 円大町警察署修繕費 200 円大町役場損害 300 円大町税務署損害 100 円大町郵便局損害 300 円竈神社損害 100 円零松寺損害 2,000 円天正寺損害 2,500 円小林区署損害 1,000 円平村口野分教場損害 300 円
		○大八車の避難小屋 大町震災余聞	大町で家を逃げ出さなかつた者太田屋旅館の老爺区裁判所 S 書記の一家のみらしい,S 方では妻が流行性感冒に罹つてそれが肺炎と変じたからだ
		○大森博士調査	大森博士 18 日測候所長及び北安曇郡視学と共に平村方面へ出張調査 19 日は村民の乞ひにより社村字常徳寺の山抜けを調査
11/20	5	○大町は漸く愁眉を開く 微震は毎日あり	掛小屋の如きも住家の修理完成し小屋掛 4 戸を余すのみ他は全部撤去,一般交通も一時禁止せる車馬通行止めも 19 日朝全く解除
		○家屋修繕	震災予防調査会より工科大学建築学科大学院学生工学士堀越三郎氏大町に於ける建築物震災調査の為め派遣 17 日来町 18 日より調査
		○中村技師帰京	中央气象台技師中村左衛門太郎氏 18 日午前 9 時半大町駅発列車にて帰京
11/21	5	○名誉ある負傷兵の末路 地震が因で死	原籍更科郡日原村 E(36) 日露戦の際ダムダム弾を受け負傷今月上旬流行の風邪に臥床 11 日の強震にて寝間の壁崩落大町五日町治療中 16 日遂に病重りて死亡
11/22	5	○病性頗る熾烈 患者 総数十万	県下の流行性感冒は病勢頗る熾烈にして容易に減退するに至らず患者総数十万死亡者又千余名,県衛生課 21 日より各署に命じて検病的戸口調査を行はしめ各戸につき予防治療上の注意を與へ
11/23	5	○悪風邪 患者 11,400 人 死者 1,400 人	21 日現在県下悪性感冒患者死亡者数 11,471 人其内訳学校 104 人工場 147 人病院 21 人其他多数人数集合所 1 人市町村 1,196 人,20 日より 22 日迄の患者数は学校 30,056 人病院 17 人其他 2,602 人市町村 53,312 人合計 10,829 人,学校の休業せるもの 91 工場の休業 16
11/26	4	○葬儀屋大ホクホク 死亡者続々	下伊那郡飯田流行性感冒は容易に下火にならない町役場毎日死亡と埋葬火葬の届で賑はつて 11 月から最早感冒亡者 80 人飯田警察署管内 256 人亡者一列縦隊